

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	YM	学部・学科	国際商
学 年	4	派遣国	イギリス
派遣大学	De Montfort University		
期 間	2025 年 9 月 29 日～ 2026 年 6 月 12 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学外の学生寮					
部屋	個室					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約（ 8.5 万 ）円 *1 ヶ月あたり					
移動	（ 徒歩 ）で、約（ 2 ）分					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

（1）1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	3.5 万円	外食込
学用品購入費	0 円	
交通費	1.2 万円	旅行のバスや飛行機がメイン
交際費	3 万円	旅行
その他	1 万円	携帯代やショッピング
合計	10 万円	*概算で記録してください。

（2）治安状況・危険地域など

夜に 1 人で歩いている女性もいるが、公園での違法パーティや事件も何件か聞いた。十分に気を付けていれば問題ないと思うが、夜は友人と歩くのをすすめる。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(9 万) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ **レスター** ）

移民の割合がとりわけ多い地域で、学生も半分以上が移民をバックグラウンドに持っている。ただ、ネイティブとも友達になれるので、イギリスの雰囲気は十分味わえる。イングランド中部に位置しているため、旅行はとてもしやすい。特に隣の街のバーミンガムに空港があるので海外旅行も容易にできて、個人的にとて気に入っている都市である。大学もシティセンター近くにあり、買い物も困らない。日本米も買えるので食に困ることはなかった。

【学業編】

1. 大学情報

大学	De Montfort University	所在地	Leicester
最寄空港	Birmingham	空港からの距離	50km
空港⇄大学	バスで 90 分弱		
学生数	26,000	留学生数	9,300
学部	Business and Law Technology, Arts, and Culture Health and Life Sciences		
学部/専攻	Business and Law		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	10:00-12:00 レクチャー	宿題 英語学習	宿題 英語学習	宿題 英語学習	9:00-12:00 セミナー
午後	13:00-16:00 セミナー	遊びまくる	遊びまくる	遊びまくる	遊びまくる

3. 履修内容

科目	Business Ethics & Sustainable Entrepreneurship		
履修期間	9/29-11/14	単位数	15 ECTS
授業内容／形態	特に SDGs の観点から、ビジネスを考える重要性を学び、循環型経済についてのワークも行った。		
成績	71/100		
YCU 振替予定	科目	特講	
	単位数	2	
	担当教員	Sue Chui	

科目	Creative Branding, Buying and Selling		
履修期間	11/24-12/12 + 1/5-1/30	単位数	15 ECTS
授業内容／形態	現代のビジネス環境において、自分のブランド力を高めることを学び、LinkedIn を使ったワーク、プレゼンテーションも行った。		
成績	70/100		
YCU 振替予定	科目	特講	
	単位数	2	
	担当教員	Adele Tilley-Jones	

科目	Business Analytics and Research		
履修期間	2/9-3/27	単位数	15 ECTS
授業内容／形態	データ分析ソフトを使って学習した。経済統計や計量経済に似ている授業だった。		
成績	72/100		
YCU 振替予定	科目	特講	
	単位数	2	
	担当教員	Imran Hossain	

科目	Managing Project and Consulting Live		
履修期間	4/20-6/5	単位数	15 ECTS
授業内容／形態	実際の企業が課した課題に対して、コンサルタントとして課題を解決する実践型実習。インターンシップのようで、難しさを感じながらもとても楽しめた。		
成績	75/100		
YCU 振替予定	科目	特講	
	単位数	2	
	担当教員	Adele Tilley-Jones	

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

私の留学生生活は、総じて満足のいく形で締めくくることができた。しかし、その道のりは決して平坦ではなく、自信と葛藤を行き来する泥臭い日々の連続であった。

最初は高い言語の壁に悩まされ、自分の英語力に自信が持てない時期が続いた。話せる場面とそうでない場面があり、自信が上がっては下がるサイクルを何度も繰り返した。

そんな私のマインドが変わったのは、周囲の交換留学生たちを観察するようになってからである。よく見てみると、彼らの英語も決して完璧ではなかった。それでも彼らは萎縮せず、拙い言葉でもその場を心から楽しんでいた。彼らと自分との違いは、単に「マインドセット」だけだと気づいたことが大きな転換点となった。それからは、後先を考えずに自分を英語環境へ追い込み、友人と過ごす時間をとにかく増やした。文化の違いに驚くことも多かったが、色んな価値観や物事を許容できるようになっていった。

また、この留学で最も財産となったのは「人との出会い」である。基本的には同じような交換留学生と過ごすことが多かったが、彼らと出会えたのは、たまたま現地で出会った一人の人が繋いでくれた縁がきっかけであった。人がいる場に積極的に赴くことの大切さ、そして本当の意味での「人と人との出会い」の重要性を、身をもって実感した。

語学面に関しては、正直に言えば「思ったよりもペラペラになることはできなかった」というのが本音である。リスニングには今でも苦手意識がある。しかし、日常会話であれば問題なくこなせるようになり、自分の気持ちを的確に表現して意思疎通を図る力は確実に身についた。何より嬉しかったのは、帰国時の空港で、初対面の二人から「アメリカ出身？」と尋ねられたことだ。自分の英語の響きや佇まいが、それだけ現地に馴染んでいたのだと、確かな成長を感じられた瞬間として深く記憶に刻まれている。

一方で、今回の留学は自分の「知識不足」を突きつけられる機会でもあった。イラン人の友人と国際秩序や政治について深く議論した際、自分の知識の浅さに気づかされ、もっと世界の情勢を知り、未来を想像できるようになればと強く刺激を受けた。

これから留学へ行く人に、はっきりと言えることがある。それは「ただ住むだけで英語が話せるようになり、聞こえるようになるわけではない」ということだ。留学中も、表現できなかった英語をその場でメモし、1日の終わりに振り返ってアウトプットするような泥臭い継続が不可欠である。

今後は、早いネイティブの英語にもしっかりついていけるよう、さらに英語学習を継続するとともに、留学で得た「積極的なマインドセット」を日本でも活かし、国内外問わずたくさんの人と繋がりたい。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

留学生生活を経て得た経験と課題を糧に、今後はさらなる語学力の研鑽と、国際社会を舞台にした新たな挑戦へ一歩を踏み出す。まずは語学面において、早いネイティブの英語にも臆せず付いていけるよう、実践的な英語学習を継続する。今回の留学では現地での就労を経験できなかったため、次はワーキングホリデーに挑戦し、海外の労働環境に直接身を置くことで、より実践的かつタフなコミュニケーション能力を培う。

また、一度日本を離れて生活したことで、外から見た日本の価値や文化の素晴らしさを客観的に実感した。今後はこの経験を活かし、政府や外務省が手がける国際的なプロジェクトへ積極的に挑戦し、日本の魅力を世界へ発信する活動に貢献したいと考えている。

最終的なキャリアとしては、単に英語を話すだけでなく、培った語学力と積極的なマインドセットを武器に、海外と深くコミュニケーションを取りながら価値を創出する仕事に就くことを目指す。留学での気づきを原動力に、常に世界へ視野を広げ、行動し続けていく所存だ。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

私自身の経験から最も強く伝えたいのは、「ただ海外に住むだけで英語が話せるようになり、聞こえるようになるわけではない」ということだ。言語の習得には、日々の地道な努力が不可欠である。現地では、自分がうまく表現できなかった英語をその場で必ずメモに残し、一日の終わりに振り返ってアウトプットする習慣をぜひ継続してほしい。その泥臭い積み重ねこそが、確かな成長へと繋がる。

また、語学力以上に重要になるのが「マインドセット」だ。現地の交換留学生たちを見渡せば、彼らの英語も決して完璧ではないことに気づくはずだ。それでも彼らが留学を楽しめているのは、萎縮せずに意思を伝えようとする姿勢があるからである。完璧を求める必要はない。後先を考えずに自分を英語環境へ追い込み、人がいる場へ積極的に赴く勇気を持ってほしい。

さらに、たまたま出会った一人が、次の一生モノの出会いを引き寄せてくれる。自ら行動を起こした先にある「人と人との繋がり」こそが、留学生生活を何倍も豊かにし、自分を大きく成長させてくれる最大の財産になるはずだ。